



博士（人間科学）学位論文 概要書

人口高齢化と扶養負担に関する研究

2001年1月

早稲田大学大学院人間科学研究科

辻 明子

指導教授 嵯峨座 晴夫

研究の目的

人口高齢化は日本を含め先進諸国における共通の構造的特徴である。近年では一部途上国でも見受けられるようになり、いまや「世界の人口高齢化」とでもいうべき状況が現実となっている。この世界的規模で生じつつある人口高齢化の意味するところは、人口に占める高齢者割合の増加傾向のことである。この現象が生じたプロセスをみてみると、多産多死から少産少死への出生および死亡パターンのシフトの帰結であることがわかる。日本については、「長寿化」「少子化」がさらにこの傾向に拍車をかけていると言ってよい。この長寿化及び少子化は我々が望んだものであると考えることができる。しかしながらそれらが組合わさってもたらされた、人口高齢化は、別段望んだものではない。それどころか、望まない状況であるかもしれない。

しかしこの現象を好ましくないものとしてとらえるのは性急である。仮に人口高齢化が生じないとどのようになるであろうか。このことは人口を「世界人口」に当てはめて考えるとよりわかりやすい。我々は死亡率の低下とその結果生じた人口の急増を目の当たりにしている。この急激な人口増加を押さえるため、つまり、出生力を押さえるために、様々な努力がなされてきた。そして、出生力の抑制についてある程度は成功を納めているといえる。とはいえ、この出生力の抑制は人口高齢化を同時にもたらすことを意味する。死亡水準が低い（あるいはさらに低下する）限り、若年化の年齢構造をもたらすのに必要な出生率増加は、かなり大きな、そして連続的な人口増加を伴うのである（Coale, 1957, pp. 83-89）。要するに、高齢者の死亡の増加あるいは大規模の国外移動がない限り、年齢構造が若くかつ増加しない人口を持つことは不可能である。人口増加を押さえ、かつ、人口高齢化を回避するという道はありえない。つまり、人口抑制と人口高齢化は表裏一体なのである。

人口高齢化によってもたらされる問題は多岐にわたるが、中でも、人口構造の変化に伴う扶養負担の増大は、高齢化社会に暮らす人々に共通する最大関心事の一つであるといえる。そしてその対応は、負担をめぐるかたちで、家族関係、企業やコミュニティの役割、社会保障のあり方等々あらゆる場において、時には世代間の公正という座標軸をも導入するかたちで、実践に移されるであろう。人口高齢化が契機となり、扶養関係、つまり人が人を支える関係が問題として顕在化しているのである。

扶養という人が人を支える関係は、古くからあるものであって、それは別段目新しいものではない。それにもかかわらず今日高齢者扶養が問題となってきた要因として、人口構造的には、高齢者の長寿化と子供と親（老親）の比率の変化があげられよう。また、家庭機能の外部化は高齢者に対する扶養に関しても進行しているのであって、このことも我々が高齢者扶養に対して改めて扶養関係の意味の確認や、場合によっては様々なエクスキューズを提示させるにいたる重要な要因であるといえる。というのも扶養は、家庭内で行われている限り、高齢者の存在と彼らに対する扶養の意義は直感的に納得されるものであるに違いない。しかしながら、それが、社会化されるならば、高齢者の存在あるいは扶養の

意義に対して不明瞭な点があがしばしば生じてしまうからである。

本研究では、まず人口高齢化という人口現象について、それをもたらした近代化という社会変動と共にその意味をとらえることから始める。さらに現在日本の高齢化の現状をふまえた上で、それが問題視されるに至る背景も含めて、人口学的な扶養負担の分析を行い、そこから導き出される扶養の姿を明らかにすることを目的とする。

目次

序章	1
研究の目的	1
研究の枠組みと構成	2
第1章 近代化としての人口高齢化	4
第1節「人口問題」としての人口高齢化：資源の分配と人口問題	5
1. 人口概念と国家統治：政治的視点による人口問題	5
2. マルサス時代の貧困：経済的視点による人口問題	10
3. 人口高齢化と社会的扶養：社会的視点による人口問題	17
第2節 高齢化社会の意味	20
1. 近代化理論と人口高齢化	23
2. 個と公の利の乖離現象としての人口高齢化	24
3. 近代化と高齢者の依存	26
まとめ	26
第2章 人口高齢化の現状と高齢者	29
第1節 人口構造指標による高齢化と高齢者	29
1. 人口高齢化の動向	29
2. 高齢者の世帯の動向	39
第2節 地方の人口高齢化	43
1. 都道府県別の高齢化	43
2. 埼玉県の高齢化と過疎市町村	51
第3節 労働力人口と高齢化	71
1. 労働力の中高齢化	71
まとめ	83

第3章 人口学的指標による扶養負担の変化	88
第1節 人口構造的扶養の意味	88
第2節 人口学的扶養指数の分類	90
1. 経済的指標	93
2. 社会的指標	97
第3節 人口学的扶養負担の分析	99
1. 従属人口指数の推移	105
2. 将来労働力と労働力従属人口指数の推移	123
3. 社会的指標の推移	130
まとめ	130
第4章 社会保障制度による扶養：人口高齢化と生活保護制度の関連	137
第1節 公的扶養の成立過程	138
第2節 転換期の生活保護制度	143
第3節 生活保護人口の高齢化	145
1. 人口構造的要因	156
2. 制度的要因	161
まとめ	161
結論	167
参考文献	174